

1-4-26. 民謡研究者・久保けんおの遺稿研究

梁川 英俊

On the Folklorist KUBO Keno's Sketches and Manuscripts

YANAGAWA Hidetoshi

鹿児島大学法文学部

*Faculty of Law, Economics and Humanities, Kagoshima University***要旨**

本研究は、現在喜界町中央公民館に保管されている民謡研究者・久保けんおの未発表の遺稿を含む資料集を調査・整理を目的としている。具体的には、資料を分類・整理してデータベースを作成し、公民館のHPで公開するほか、草稿類の分析を通して、採集家のみならず、詩人、教育者、作曲家、編曲家などという久保の多様な活動に光を当ててみたい。

はじめに

久保けんお(1921-1991)は、1940年代から民謡の採集を行い、『南日本民謡曲集』や『南日本わらべうた風土記』等の著作により南九州の音楽文化の継承に大きな貢献をした在野の民謡研究者である。本研究は2012年に久保の遺族により寄贈され、現在喜界町中央公民館に保管されている未発表の遺稿を含む資料集を調査し、南九州の民謡研究史に新たな光を当てることを目的としている。

喜界町中央公民館に保管されている資料集(以下、久保資料と略す)は、保存用段ボール6箱からなり、大正琴のような愛用の楽器のほか、自筆原稿、自筆譜、採集メモ、手紙、スクラップブックなど約1700点が収納されている。この資料はこれまで研究者の調査対象となったことがなかったが、2020年6月以来数度にわたって調査を行ったところ、未発表の原稿や楽譜等、貴重な資料が多く含まれ、戦中戦後のわが国の口承文化の実際を現場から伝える貴重な資料であることが明らかになった。本研究が目的としたのは、以下の3点である。①自筆資料のすべてを、その内容に従って分類・整理してデータベースを作成し、公民館のホームページ上で公開する。②自筆資料の執筆年代や内容を精査し、久保の採集活動の実際を具体的に明らかにする。③未発表原稿を通して初めて明らかになる久保の詩人、教育者、作曲家、編曲家としての側面にも光を当て、その活動の全体像を明らかにする。

現状と展望

久保資料については、2010年に奄美博物館に資料が委託された際と、2012年に喜界町中央公民館に保管された際に各1度、計2度の分類・整理作業が行われており、目録も作成されている。しかし、いずれも非専門家による短期間の作業であり、さらに詳細な分類・整理が必要である。また資料自体の劣化も進んでおり、自筆原稿や自筆譜に関しては、できるだけ早くスキャナーによるデジタル化を進め、データベースを作成する必要がある。久保資料は禁帯出であり、これらの作業はすべて公民館内で行わなければならないが、自筆原稿や自筆譜についてはほぼすべてスキャンを完了した。これらを元にデータベースを作成し、喜界町中央公民館のホームページで公開する予定である。

資料の内容については現在調査・分析を進めているが、自筆原稿、自筆譜、採集メモ等の資料の多くは、執筆年代や目的等が不明である。本研究ではそれらの資料を既発表・未発表に分類した上で、執筆年代と目的を出来るかぎり明らかにしたいと考えている。久保が生前に発表した著作には、演唱者や採集年月日の情報が明記されておらず、採集活動の詳細を知ることが困難だが、資料中の採集メモには歌の提供者の情報や歌の内容や由来等が書き込まれており、一部ではあれ具体的な情報が得られることが期待される。また資料の年代については、時代ごとの筆跡の特徴を調べることで大まかに分類できる可能性がある。

久保は1984年に脳血栓で倒れて以来療養生活を余儀なくされ、その7年後に逝去した。その意味では、志半ばで世を去った感が強い。久保資料には未発表の詩集、わらべ歌を音楽教育に応用するための方法の考察、オペラの台本、自作の新民謡や島唄の編曲等の楽譜等、従来知られることの少なかった詩人、教育者、作曲家、編曲家等の多様な側面を伝える資料が多く含まれている。また、久保が携わったNHKの全国民謡調査、鹿児島市の「ふるさと芸能祭」、鹿児島市内で民謡研究所や民謡教室等の運営等に関する資料等も少なくない。これらの資料を精査することによって、生前の久保の多様な活動に光を当てることができるだろう。

なお、今回の調査で得られたさまざまな成果については、筆者と共同で久保資料を調査し、その音楽教育に関する知見の解明に力を入れている作曲家・東京音楽大学准教授の原田敬子氏との共著で、将来的に島嶼研ブックレットの一冊として刊行する予定である。